

第3学年 算数科学習指導案（例）

算数科学習指導案
作成の手引き

令和〇年〇月〇日
〇〇小学校 第3学年2組 18名
指導者 〇〇 〇〇

1 単元名 余りのあるわり算

2 単元について

- *1 本単元に至るまでの学習状況や本単元の学習内容につながる児童の日常生活との関わり
- *2 本単元の学習内容の系統（同学年の他単元や他学年とのつながり）、それらを踏まえた本単元のねらい（育成する資質・能力）
- *3 本単元の概要と指導の重点内容
- *4 本時の指導（本時の概要、本時における目指す児童の姿、本時の目標を達成するための具体的な支援等）

3 単元の目標

- (1) 割り切れない場合の除法の意味や余りについて理解し、それが用いられる場合について知り、その計算が確実にできる。
- (2) 割り切れない場合の除法の計算の意味や計算の仕方を考えたり、割り切れない場合の除法を日常生活に生かしたりすることができる。
- (3) 割り切れない場合の除法に進んで関わり、数学的に表現・処理したことを振り返り、数理的な処理のよさに気付き生活や学習に活用しようとしている。

- (1) 知識及び技能 文末表現「～できる」
- (2) 思考力、判断力、表現力等 文末表現「～できる」「～している」
- (3) 学びに向かう力、人間性等 文末表現「～しようとしている」 ※主語は児童。

4 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①包含除や等分除など、除法の意味について理解し、それが用いられる場合について知っている。 ②除数と商が共に1位数である除法の計算が確実にできる。 ③割り切れない場合に余りを出すことや、余りは除数より小さいことを知っている。	①除法が用いられる場面の数量の関係を考え、具体物や図などを用いて表現している。 ②余りのある除法の余りについて、日常生活の場面に応じて考えている。	①除法が用いられる場面の数量の関係を考え、具体物や図などを用いて表現しようとしている。 ②除法が用いられる場面を身の回りから見付け、除法を用いようとしている。
文末表現 「～できる」 「～している」	文末表現 「～している」	文末表現 「～している」 「～しようとしている」

※主語は児童。 ※「おおむね満足できる」状況(B)として設定する。

単元の評価規準は、小学校学習指導要領の内容をもとに、「内容のまとまりごとの評価規準」やそれをさらに具体化した「具体的な内容のまとまりごとの評価規準」で示された項目から選ぶなどして作成する。

※「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料

「内容のまとまりごとの評価規準（例）」 p.89～

「具体的な内容のまとまりごとの評価規準（例）」 p.118～

小学校学習指導要領
「内容のまとまりごと」に示された以下の文言
ア 知識及び技能
イ 思考力・判断力・表現力等
学年目標に示された以下の文言
(3) 学びに向かう力、人間性等 の文言を元に

「内容のまとまりごとの評価規準」

↓ 評価規準の文言を具体的な書き方で表現を揃える。

「具体的な内容のまとまりごとの評価規準」

↓ 単元に合わせて、
↓ 「具体的な内容のまとまりごとの評価規準」を
↓ そのまま用いたり、分割したり、組み合わせたりする。

「単元の評価規準」

N | + 5 独立行政法人教職員支援機構

参考資料p.39

5 単元計画（8時間）

時間	ねらい・学習活動	評価規準（評価方法）		
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1	日常生活の中でもものを分けるとき、余りがある場合について考え、単元のめあてをつかむことができる。 ・余りがない場合とある場合を生活の中から想起し、答えの見つけ方を具体物や図などを用いて考える。		・思①（行動観察、ノート分析）	・態①（行動観察、ノート分析）
2	余りがある場合の除法の式の表し方や、余りなどの用語の意味を知り、余りと除数の関係を理解することができる。 ・余りと除数の関係に着目し、調べる。	・知①（ノート分析） ・知③（ノート分析）		
3	等分除の場面についても余りがある場合の除法が適用できるかを考えることができる。 ・等分除の場面で、答えの見つけ方を考える。		○思①（行動観察、ノート分析）	
4 本時	余りがある場合の除法の計算について、答えの確かめをすることができる。 ・被除数や除数、商、余りの関係などについて考え、確かめの方法を考える。	・知②（ノート分析）		
5	日常生活の場面に当てはめたときに、商と余りをどのように解釈すればよいかを考えることができる。		・思②（行動観察、ノート分析）	○態①（行動観察、ノート分析）
6	・商に1を加える場合や加えない場合について、それぞれ考える。			
7	学習内容の定着を確認し、理解を確実にすることができる。（章末問題）	・知①②③（ノート分析）		○態②（ノート分析）
8	学習内容の定着を確認する。（評価テスト）	○知①②③（ペーパーテスト）	○思②（ペーパーテスト）	

4 単元の評価規準
思考・判断・表現の①

5 単元計画の評価規準 においては、

「・」…指導に生かす評価を行う代表的な機会:主に「努力を要する」状況と考えられる児童の学習状況を確認し、その後の指導に生かすために評価を行う。児童の学習状況を見取り、確実に習得できるように指導する。

「○」…記録に残す評価を行う機会:学級全員の児童の学習状況について、総括の資料にするために記録に残す評価を行う。

知識・技能

算数科における知識は、単元を通して繰り返し使う中で、定着し理解が深まり、技能も繰り返し使うことで習熟し、生きて働く確かなものになっていくため、「○」の評価を行う機会は単元の後半に設定することが考えられる。

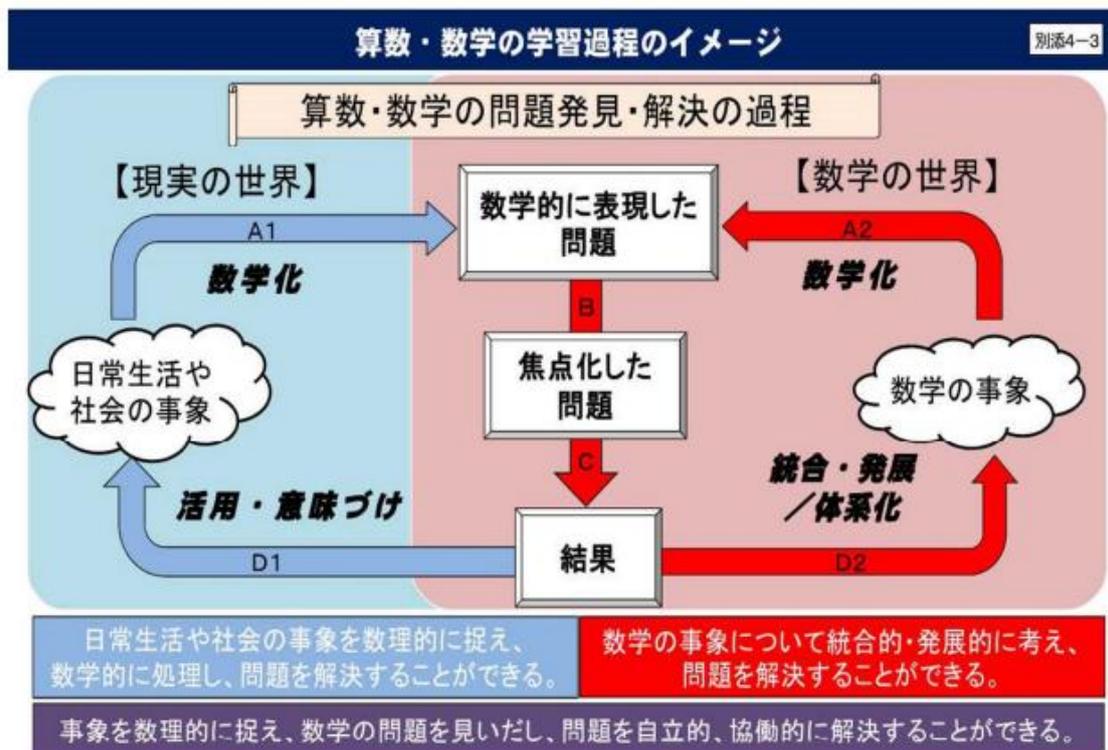
思考・判断・表現

授業中の問題発見や解決の過程において児童が発揮するものであるので、授業中の発言や話し合いなどの活動の様子と個人解決時の問題解決の様子、適用問題の解決の様子や振り返りの記述内容から評価することが考えられる。

主体的に学習に取り組む態度

授業中の問題発見や解決の過程において既習事項を活用したり、話し合いの中で他者の意見を参考にしたりする姿等に表れたり、振り返ってよりよい表現や方法を考えたり、新たな問題場面を見いだしたり、日常生活の場面において活用しようとしたりする姿等に表れたりする。それらの活動の様子やノート等の記述内容から評価の情報を収集し、評価することが考えられる。

解説 p.8 より「算数・数学の学習過程のイメージ」



※各場面で、言語活動を充実
 ※これらの過程は、自立的に、時に協働的に行い、それぞれに主体的に取り組めるようにする。
 ※それぞれの過程を振り返り、評価・改善することができるようにする。

6 本時の学習

(1) 目標

余りがある場合の除法の計算について、答えの確かめをすることができる。

(2) 展開

4段階で設定する。主語は児童。

学習活動	教師の支援	具体的評価規準 (評価方法)
<p>1 学習のめあてをつかみ、解決方法や結果の見通しをもつ。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>あめ23こを、1ふくろに5こずつ入れると、何ふくろできて、何こあまりますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 4ふくろできて、3こあまる ・ 4ふくろできて、2こあまる ・ 3ふくろできて、8こあまる <p>どの答えがっているのかな。</p> </div>	<p>・ いろいろな答えを提示することにより、答えを確かめる必要性を児童が感じられるようにする。</p> <div style="border: 1px solid blue; border-radius: 10px; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <p>教師の支援の参考例 「(教師が) ~することにより、(児童が) ~できるようにする。」※「~させる」など使役はほとんど使わない。</p> </div>	
<div style="border: 1px solid blue; border-radius: 10px; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> <p>めあて (焦点化した問題) 問題を解く中で生まれる問題で本時、特に考えるべき部分。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px; text-align: center;"> <p>答えをたしかめるほうほうを考えよう。</p> </div>		
<p>2 各自、答えを確かめる方法を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ (除数) × (商) + (余り) = (被除数) ・ (余り) < (除数) ・ (除数) × (商) + (余り) = (被除数)かつ (余り) < (除数) 	<p>・ 考えが停滞している児童に対しては、数図ブロックを使用したり前時までの学習を振り返ったりすることを促すことにより、問題場面を把握し問題解決できるようにする。</p>	<p>・ 知②除数と商が共に1位数である除法の計算が確実にできる。 (ノート分析)</p>
<p>3 答えを確かめる方法について話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自分の考え方と違うところなど、聞いてみたいところを質問し、確かめる方法を検討する。 ・ 2つの条件が必要なことをまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ クラス全体にそれぞれの方法の根拠を問い返すことにより、2つの条件が必要なことに気づき、共有することができるようにする。 ・ (余り) < (除数)については、学習したことを振り返る時間を設ける。 	<div style="border: 1px solid blue; border-radius: 10px; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <p>児童の姿(つまずきを含む)を十分に想定しながら、考案する。</p> </div>
<p>4 適用問題を解き、振り返りをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 問題解決の過程を振り返り、振り返りをノートに書く。 	<p>・ 反例を示すなどしながら、2つの条件が必要なことを確実に理解できるようにする。</p>	

(3) 評価する状況と具体的な支援

「十分満足できる」と判断される状況	・ 除数と商が共に1位数である他の除法の計算について答えの確かめを行い、答えの確かめの理解を深めている。
「おおむね満足できる」状況を実現するための具体的な支援	・ 数図ブロック等を指導者と共に操作し、問題場面の状況を把握できるようにするなど、2つの条件が必要なことを可視化しながら理解できるようにする。